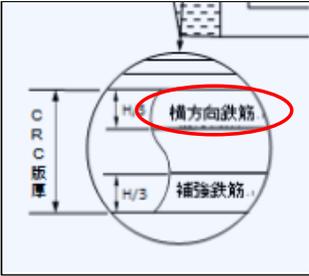
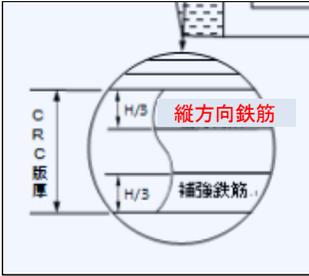
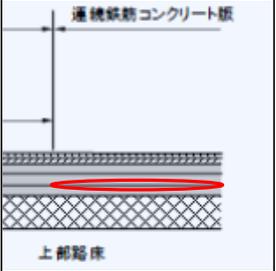
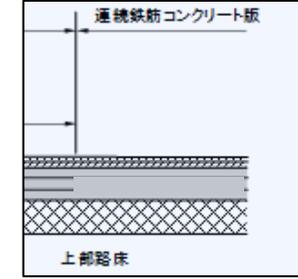


「コンクリート舗装ガイドブック 2016」の正誤表

(平成 28 年 12 月 7 日現在)

頁	箇所	誤	正	摘要
H28.10.28				
28	式 (4.2.2), 表-4.2.4 の下の式	式 (4.2.2) 設計支持力係数 = 平均支持力係数 \times $\frac{\text{支持力係数の最大値} - \text{支持力係数の最小値}}{C}$ 表-4.2.4 の下の式 路床の設計支持力係数 = $95.8 \times \frac{121-66}{2.67} = 74.7 \approx 75$ (MPa/m)	式 (4.2.2) 設計支持力係数 = 平均支持力係数 \times $\frac{\text{支持力係数の最大値} - \text{支持力係数の最小値}}{C}$ 表-4.2.4 の下の式 路床の設計支持力係数 = $95.8 \times \frac{121-66}{2.67} = 74.7 \approx 75$ (MPa/m)	第 2 刷で修正予定
30	4-2-6 本文の 13 行目	路盤支持力係数を 0.3, 危険率を 5% とすると, . . .	路盤支持力係数の 変動係数 を 0.3, 危険率を 5% とすると, . . .	第 2 刷で修正予定
99	表-4.6.1 中の②	施工規模が大きい場合 (舗装施工便覧)	施工規模が大きい場合 (セメントコンクリート舗装要綱)	第 2 刷で修正予定
212	5-8-9 本文の 3 行目	②鉄筋に氷が付着 . . . , 鉄筋との 付着剛性 が著しく . . .	②鉄筋に氷が付着 . . . , 鉄筋との 付着強度 が著しく . . .	第 2 刷で修正予定
213	コラム 19 図-C19.1			第 2 刷で修正予定
		赤丸の部分の線が不要 		

「コンクリート舗装ガイドブック 2016」の正誤表

(平成 28 年 12 月 7 日現在)

頁	箇所	誤	正	摘要
220	図-6.4.2 中の(1)	$(1) f_{br} = (f_{bk} + f_p) \times p$ ここに、 f_{br} ：配合曲げ強度 f_{bk} ：設計基準曲げ強度 f_p ： 締固め安全強度 p ：割増し係数	$(1) f_{br} = (f_{bk} + f_p) \times p$ ここに、 f_{br} ：配合曲げ強度 f_{bk} ：設計基準曲げ強度 f_p ： 割増し強度 p ：割増し係数	第 2 刷で修正予定
303	1 設計条件 本文の 7～8 行目	「通常、スランプは 5～8cm だが、 機械施工であるため、下限である 5cm とした。 」	(表-4.6.2 の記述に合わせ) 「通常、スランプは 3～8cm だが、 セットフォーム工法であることや現場条件等から、本設計例では 5cm とした。 」	第 2 刷で修正予定
317	付表-2.3.5 備考の(6)	実績 率	実 積 率	第 2 刷で修正予定
323	2) 単位水量の検討 本文の 3 行目	フレッシュコンクリートは 柔 らかく	フレッシュコンクリートは 軟 らかく	第 2 刷で修正予定
H28.12.7				
186	図-5.4.2			第 2 刷で修正予定